さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1
　中央市の「子ども学習サポート中央」では、誰が誰を対象に学習教室を開いていますか。

・誰が ……

・誰を ……

問2
　団体は、何を目的として、設立されたのでしょうか。

……

……

……

……

問3
　この活動によって、どのような成果が出ていると言っていますか。

……

問4
　今、この団体が、抱えている課題を、答えてください。

……

……

……

元教員の学習教室5年

中央 個別指導、児童の意欲向上

児童の学習指導をするスタッフの元教員（左）＝中央・玉穂総合会館

中央市内の元教員でつくる学習支援団体「子ども学習サポート中央」（早川憲三代表）が、小学生を対象に学習教室を開いている。2018年の設立から本年度で5年目。一人一人に合わせた個別指導が特徴で、児童が、学校の授業に意欲的に取り組むようになるといった成果が出始めているという。一方で希望者が年々増加し、受け入れ体制の拡充などが課題となっている。

　団体は児童の基礎学力向上や多忙化する学校現場のサポートを目的に設立された。小学2～6年生を対象に算数を指導。スタッフ1人が児童1、2人を担当し、市販の教材を活用しながら、授業で学んだ内容の定着を図っている。

　本年度は6月25日に田富、豊富、玉穂の3地区で開講。市内の小学校に通う計50人の児童の応募があったが、スタッフ数を考慮し、「つまずきを早期に克服するため」（団体）低学年を優先して計31人の参加者を受け入れた。25日に玉穂総合会館で開かれた玉穂教室に参加した4年生男児は、苦手だという分度器の使い方を学習。「質問しやすくて、楽しく勉強できた」と話した。

　教室では学校との連携を図るため、学校側に授業中の様子を尋ねるアンケートも実施。昨年度は授業態度が積極的になった児童がいて、学校側が教室での指導を見学に訪れたという。

　学習教室は来年2月まで毎月2回開く計画。現在は24人の元教員が運営に当たっていて、「希望者全員に対応できるスタッフの確保や体制づくりが今後の課題」という。

　今後、さらに学校との情報共有を図っていきたい考えで、玉穂教室を担当する片田俊一さん（70）は「子どもが気軽に分からないことを聞ける人間関係をつくりながら、学校教育を補完できる場にしていきたい」と話している。

〈杉原みずき〉

（2022年7月8日付 山梨日日新聞20面）

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2022 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.